

# 初任給1万円アップ

## NIPPO 採用活動で優位性

NIPPOは、この4月入社する新入社員から初任給を引き上げる。土木系学生の他産業・他職種への流出を防ぐとともに、採用活動での優位性を高めるのが目的。引き上げ額は1万円で、大卒22万円（従来21万円）、大学院卒24万円（23万円）、高専卒20万円（19万円）となる。初任給の引き上げは09年4月以来5年ぶり。

賃金のベースアップ（ベア）については、今

後の労働組合との交渉によるものの、社会情勢なども踏まえ「（ベア検討を）前向きに考えている」（人事部）という。例年、4月下旬に組合から要求があり、5月下旬に妥結するという。ベア実施が決まれば、96年4月以来18年ぶりとなる。

建設工業新聞  
平成26年3月25日掲載

## 総合職の初任給1万円アップ NIPPO

NIPPOは、総合職の初任給（基本給）を1万円増額する方針を固めた。4月に入社する新入社員から適用し、大卒は22万円、大学院卒は24万円、高専卒は20万円にそれぞれ引き上げる。増額の理由として同社人事部は「採用に対する優位性を高めるため」と説明している。引き上げは今回同様1万円増を実施した2009年以来5年ぶり。

同社は14年4月採用で総合職の新卒採用枠を40人に設定していたが、「土木系の学生も少なく、他産業への就職希望も多い」（同社人事部）状況下で苦戦を強いられ、結果的に採用数は37人とどまった。

建設業離れが顕在化し、「ゼネコンを含め、学生の目が向いていない」

（同）状況を打開するため、日本道路建設業協会の加盟各社などを参考にした「相場」の初任給21万円に1万円を積み増すことで、「採用に関してのインパクトが得られる」と判断し、引き上げに踏み切った。

一方、ベースアップ（ベア）について同社人事部は、「はなから応えられないという、これまでのような状況ではない」とし、組合側からの要求があれば、検討していく考えを示している。仮にベアが実施された場合、1996年以来18年ぶりとなる。

建設通信新聞  
平成26年3月25日掲載

# 初任給1万円引き上げ

## 採用での優位性確保図る

NIPPO

NIPPOは、新卒採用における優位性を確保するため、このほど初任給を1万円引き上げるとを決めた。

対象となるのは同社社

員のみで、4月に入社予定の37人に適用。大学卒が現行の21万円から22万円に、大学院卒が23万円から24万円に、高専・短大卒が19万円から20万円

となる。  
近年、学生の理工系離れが指摘される中、土木系も例外ではなく、選択する学生の減少や他産業への流出等が深刻になっている。実際に「学校等での会社説明会において、同社をはじめ建設産業界に目を向ける学生は

少ない。4月の採用人数も予定を下回っている」（同社人事部）状況にあることから、「金額が全てではない」としつつも会社選抜の一要素として「引き上げを機に興味を持ってもらい、来てもらいたい」との考えを示す。

同社初任給の引き上げについて、直近では09年度に、世間相場にあわせるため、今回同様1万円を実施している。今後も▽世間相場▽業績やその見通し▽自社の賃金水準——等を踏まえながら、検討・見直しを図っていく考え。

建設産業新聞  
平成26年3月25日掲載